

南小だより

minamiurawa-e@saitama-city.ed.jp

令和4年5月2日

5月号

さいたま市立南浦和小学校
電話 048-861-3781



目を合わせること

校長 小野 圭司

毎朝の登校時に子どもたちと挨拶をかわしていますが、日によって雰囲気が変わります。やはり月曜日は週初めということもあり、全体的に静かな感じですが。火～木曜日は比較的元気で、金曜日はこれも週によって変わります。週の終わりのため、元気な時と静かな時があります。

このような中、最近は挨拶が元気か否かというよりは、私と目を合わせてくれるかどうかを見ています。今は目を合わせてくれる子が8割くらいでしょうか。やはり挨拶をした時に、目を合わせてくれないと寂しい気持ちがしますし、目を合わせて挨拶をされると素直に嬉しいものです。以前、「挨拶は自分のためにやるもの」という内容をこの学校だよりでも話題としましたが、私は自分の気持ちを明るく前向きにするために挨拶をし、それに対して相手が目を合わせた挨拶をしてくれると更に元気になっています。

私と目を合わせられない子にとっては、「校長先生」というと「担任の先生」とは違い、少し遠い存在であり、話したこともあまりないため恥ずかしい気持ちがあるのかも知れません。また、中には私が毎回の講話朝会などで「今日も目と目を合わせた挨拶をありがとう。」と言っているため、無理をして目を合わせている子もいるのかも知れません。私自身も初めて会う人やそれほど親しくない人と話をする折には、なかなか相手の目を見ることができません。何度か接するうちに打ち解けて徐々に目と目を合わせるようになるようになってきます。なお、私も若い頃には自分に自信をもてずに、下ばかり向いていた記憶があります。

大人でさえもなかなか目を合わせての挨拶はできないものなので、それを子どもたちに求めるのは酷なのかも知れませんが、本校の子どもたちには目を合わせた挨拶をする姿勢や勇気をもたせたいと考えています。「目は口ほどに物を言う」ということわざもありますように、人とコミュニケーションをとる上で、目を合わせることは大きな武器になります。特に今はマスクを着用しているため、相手の表情が分かりづらい中ですので、相手が目を合わせてくれるだけで心が通じたように思うこともあります。ぜひ、ご家庭で、お子さんがご自身と目を合わせる事ができているか見てください。

今年度も交通指導員の皆様をはじめ、防犯ボランティアの皆様、「ながら見守り」ボランティアの皆様、青少年育成地区会の皆様、子ども会の皆様などに子どもたちの登下校時に大変お世話になっております。いつも本当にありがとうございます。声を掛けていただいた際には、ぜひ、子どもたちとまずは目を合わせるようにしてみてください。目が合うと、元気な挨拶をしてくれる以上に嬉しいものです。